



新板頭書

女おんなのの教しよ訓くん境けい

平野屋板

午正月廿二



午正月廿三

新板頭書

女今川教範

平野屋板

女今川



今イマ川カハのノあアまマまマへヘあア
 一ヒト制セ綱ツれレ電デン
 一ヒト寺テ乃ノあアまマまマがガかカ
 まマくク女メおオあアちチ明メイりリ

九曜文庫



一 形くさし事
 一 養女を養はぬ
 一 人妻りきもの
 一 少き徳の事
 一 事
 一 事



一 事
 一 人然る事
 一 大事でも母へ
 一 父母の事
 一 事
 一 事
 一 事

考乃みち跡ふなる事あらそ

一丈あせの長し然とそんこれ

と后と名しなる事なそ

一草くさふ花はなびはなの葉はのめめ

うらやむ事

一正ただ楽たのししくくははぬぬへへききなりなり

うらやむ事

一花はなびはなの長ながくく成なるる事こと

是こゝれこゝははななのの長ながくく成なるる事こと

一程ほど急いそぎぎななるる事こと

人れ^{ひと}の^{あき}あき^{あき}加^かる^る事^{こと}

一^{ひと}の^{あき}あき^{あき}利^り根^ね不^ふ速^{すみ}ひ^ひ事^{こと}
外^{ほか}人^{ひと}成^な終^はし^し事^{こと}

一^{ひと}の^{あき}あき^{あき}中^{ちゆう}に^に成^な人^{ひと}は^は終^は成^な終^は事^{こと}
身^みと^とき^きよ^よし^し事^{こと}

一^{ひと}の^{あき}あき^{あき}類^{るい}た^た具^ぐの^のま^ま更^ま事^{こと}

一^{ひと}の^{あき}あき^{あき}法^{ほふ}の^の人^{ひと}事^{こと}

一^{ひと}の^{あき}あき^{あき}貴^きも^も男^{おとこ}法^{ほふ}の^の事^{こと}

一^{ひと}の^{あき}あき^{あき}身^みと^とき^きよ^よ事^{こと}

一^{ひと}の^{あき}あき^{あき}乃^の也^やと^とあ^あげ^げ然^{しか}不^ふ智^ち事^{こと}

男人事

一 如家沙門まがけにあ對面あえとのまま

側迎そとくならる事

一 教ま分げ福ふ成じ如にまま成まかおびり
あらひい不ふ足それ事

一 中か人たの長壽ち成じ亦またくぞおははひ
まう中ちゆう一いちううごご法ほう事

一 舅まう始はじめおはままのふくく中ちゆう人じんれれ
その一いち成じ濟せいの事

一 継つぎ子こおお誅しゆうめめの事他人たにんの事

一 勢り成加ふる事あきけ せい

一 男きふるぬらぬく之間辺死親おとこ とも ちま しの ちま せ

一 勢りともあつしをる事あきけ とも せ

一 道成守る人成まきくひ我ちみち せまも ひと せまき くれ われ

一 急らふ友と電する事いそ たら とも と づま する こと

一 人未る時我不穢嫁ふまうせひと 未 くる とき われ 不 せいで 嫁 ぶ まう せ

一 いの里成移し不穢此事いの 里 せ うつし 不 せいで こと

一 衣は儻と常ふらぬふをい は だう と じょう ぶら ぬ ぶ を

一 度死事強ししかるそこの言いち たび じ こと かつ し しかる そこの ことば

一 行心精しきまこと先家とあるい ころも せい し き ま こと せん け と ある

一 二 作

一 三

乃死あひあふ海ぎら成事可く西海
ト事我ときえんせまはれん不流ふ
乃一丈夫ら湯所く流く男
れもあなり地は流ふく和女
乃みらへ流く湯ふ流ふ事夫

地自然れ及理なるゆゑ事婦れ
も成て地ふきとくねん事を
のごとく教ひそふは是則て地は
なりまきぶひとけな死より心定
やごとく事成ふおまのう後初

地一

一

心も根うらぐ 賤き友小をる
庭うらぐ 水も方角に流る
人々長悪乃あるとらふ
実あるうね 友と交る家
海方如く 心と流る好む

中情あり人々長悪を知りあふ
庭あり人々の親む事と見え
知りとの心事あり流る
ありての庭と流る女があり
氣流るを流好むとらふ

心成りのそとあはれなき葉せ
梅りきむぎへ一実なれはを交ま
まはれりさむむむむ長人ぢんとあり
成り悪人あくじんとかな方とにたけいけ
なればありれ習ひふあるべし男おとこ

あなればそりあせ備おぼひこち成
なればしるもたつとの人さも女おんなと
てらそあまの梅うめありは故ゆゑお女おんな乃
法はふありと成知し毛かままく物ものお
成なりりて海うみおに情なさけ成なりり成なり経けい

なく他の家におりまふはひ男は
侍も親身もまぶ父母の侍も
暫れ方な侍も存りははく
奉侍一より面白粉張が
髪形は粧ふは、あまの房は

いみぢきある人とま方人稱へんじ
楽合ふと好くは貧く是きり
とも知らぬ形も侍も
智ある人お跡まはるへん
と知ると思ふはまはるは

我のひびきとあはれ一世はあはれ
あはれ我とあはれ一かゝる方と知
た一人とあはれ仕事日月九年
本國を去る時一かゝる人を見
たの人あはれひびきとあはれ一

